

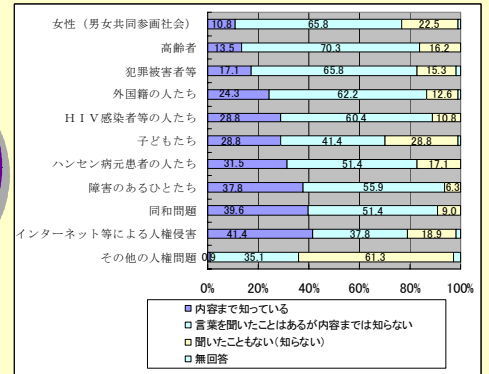
「男女共同参画社会」に関する理解を深める指導の工夫

—新聞や統計資料を活用した参加体験型学習を通して—

人権教育班 高橋 正幸（中学校教諭）

現状と課題

- ・人権教育重要課題について、「女性（男女共同参画社会）」に関する内容の理解が低い。
- ・古くから伝わり続く「固定的な見方」、「性差による分担意識」等これまでの生活体験に基づき形成され身に付いてしまった男女に関する見方への違いがある。



協力校生徒の人権教育重要課題に関する知識理解の実態

そこで

課題解決に向けて男女の相互理解（男女共生）や人を性別でなく個としてとらえる見方（個の尊厳）などの学習を進め、その理解を深める必要がある。

手だて

①新聞の記事や統計資料の活用

新しい話題、身近な話題、具体的なデータを提示

- ・新聞やインターネットから最新の記事を入手
- ・統計資料等はインターネットで入手。



効果

「男女共同参画社会」についての現状を知ることができた。
差別や偏見等の現状に対する疑問や憤りを感じることができた。
学習意欲の喚起ができた。



なぜ？ どうして？

②ワークショップ

ランキング活動を行い、「男女共同参画社会」を達成するために必要なことを考える。

- ①個人で「男女共同参画社会」を達成するために必要な事柄に順位を付ける。
- ②班の活動で、個人で付けた順位を基に、班での順位を付ける。

効果

お互いの考えを知り、認めながら、考えることができた。

そう考えたんだね。
私はこうだよ。



③話し合い活動

「男女共同参画社会」達成に向け、創造的な問題解決の方法を話し合う。

- ・ブレインストーミングやアサーションの手法を取り入れた話し合い。
- ・自由な発想で討議し、目標の実現のためのアイデアを出す。

効果

具体的な解決方法を考えることができた。
自己の固定的な見方や考え方に気付いた。

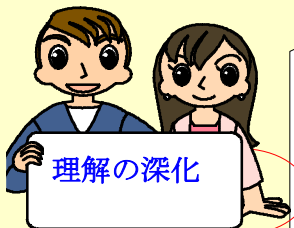
協力が一番。
よい社会にしよう。



獲得した情報を土台に

様々な意見から考えを広げ

自らの発見による知識の獲得



- ・性別にかかわらず互いを尊重し、その個性と能力を十分に発揮し男女協力してよりよい社会を築くことが大切
- ・固定的な見方や考え方に気付き、改善し、実践していくことが大切

成果

新聞記事や統計資料を活用し、ワークショップや話し合い活動を取り入れたことは、男女がそれぞれを認め合い、尊重し合うことの大切さを理解し「男女共同参画社会」についての理解を深めるのに有効であった。